

高次脳機能障害

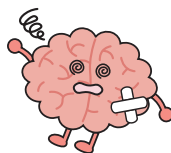
こうじのうきのうしょうがい

K-style

医療図書館

Vol.77

2024 秋号



高次脳機能障害とは

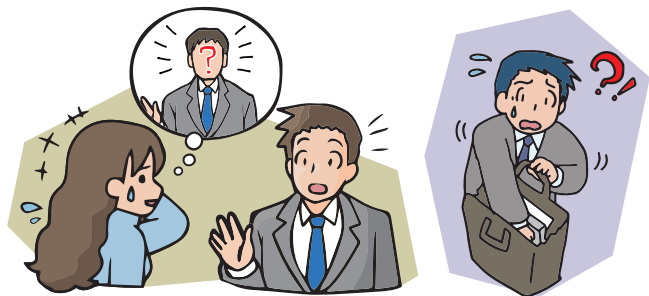
高次脳機能障害とは、脳血管障害（脳卒中）や脳外傷の影響で生じる、*失語症・*注意障害・*記憶障害・*遂行機能障害・*社会的行動障害などの総称です。ほかに*失行・*失認なども代表的な高次脳機能障害の一部です。このように高次脳機能障害とは、脳の何らかの損傷（機能不全）によって生じる、認知機能（知能）あるいは非認知機能（情動）障害の総称といいかえることができます。（*の具体的症状については下記チェックリストをご参照ください。）



川崎医科大学附属病院
リハビリテーション科 副部長 平岡 崇

日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医・指導医、日本臨床神経生理学会専門医、日本臨床倫理学会 上級臨床倫理認定士、日本摂食嚥下リハビリテーション医学会認定士、日本医師会認定産業医

いては主にふたつの用法があります。ひとつは先に述べたような、脳の機能異常によって生じる認知/非認知機能障害のすべてを含む広義（広い意味）の高次脳機能障害です。このなかには、アルツハイマー型認知症や先天性の知的障害などによるものも含まれます。もっと極端な話をすれば、意識障害によって認知（非認知）機能が働かないような場合まで含まれます。もうひとつは、狭義（狭い意味）の高次脳機能障害です。これは日本国内限定の行政診断の用法で、先の広義の高次脳機能障害のなかで、以下のような条件を満たした場合のみに使用されます。その主な条件とは、①脳卒中や脳外傷などの非先天性/非進行性疾患等によって脳に傷があることがCTやMRIなどの画像で確認できる、②日常生活または社会生活の制約の原因が、注意障害・記憶障害・遂行機能障害・社会的行動障害などであるとなっています。つまり進行性の変性疾患であるアルツハイマー型認知症や、先天性疾患である発達障害などによる高次脳機能障害は含まれません。また交通事故等による外傷で、MRIやCTなど

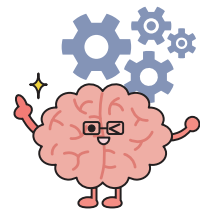


チェックリスト

- 失語症(言葉がわからなくなる/話せなくなる/読み書きできなくなるなど)
- 注意障害(うっかりミスをする/注意が散漫になり周囲の危険に気づけない/頼まれごとを忘れてしまう/忘れ物が多いなど)
- 記憶障害(新しいことが覚えられない/昔のことを思い出せないなど)
- 遂行機能障害(計画や段取りができない/作業の能率が悪くなるなど)
- 社会的行動障害(怒りっぽくなる/自己中心的で気遣いできなくなるなど)
- 失行(運動の麻痺がないのに道具などが上手に使えるなど)
- 失認(ヒトの顔の区別がつかなくなる/知っているはずの道でも迷う/左右がわからなくなるなど)

の画像で脳に明らかな傷が確認できない場合も含まれません。このように本邦においては、「高次脳機能障害」という用語に、広義/狭義のふたつの意味が含まれることで、高次脳機能障害の診断/理解は難しいといわれています。当院は、岡山県高次脳機能障害支援拠点病院に指定されており、大病院ならではの、高度人材・最新機器・情報ネットワークを組み合わせ、診断から社会参加支援まで個々の患者さんのニーズに寄り添ったきめ細やかで幅広い高次脳機能障害診療を行っています。当科では高次脳機能障害をはじめ様々な障害に対し、リハビリテーション（病気の治療のみならず心理的支援/生活就労支援まで行う全人的医療）および当院の理念に沿った診療を心がけております。次のチェックリストをみて気になった方は主治医の先生に相談してみてください。

最新のテクノロジーを用いたりハビリテーション医療



本稿では当院でも行っている「リハビリテーションロボット」など最新のテクノロジーを用いたりハビリテーション医療について紹介したいと思います。ロボットとは

「センサー、知能・制御系、駆動系の3つの要素技術を有する知能化した機械システム」と定義されます。(経済産業省)



1. HAL (Hybrid Assistive Limb®)

緩徐進行性の神経筋疾患などで身体を思うように動かせなくなった患者さんに対する機能改善目的で使用するサイボーグ型ロボットです。体を動かそうとしたときに体表に発せられる微弱な生体電位信号を皮膚に貼ったセンサーで検出し、装着者の意思に従って動作をアシストします。訓練を継続することで機能改善が期待できます。



2. Weiiwalk® 1000

脳血管障害などで歩行ができなくなった患者さんに対しての歩行訓練(運動学習)を支援するためのロボットです。大がかりで皆さんの思い浮かべるロボットとは少しイメージが違うかもしれませんが、これも医療用リハビリテーションロボットです。



3. LIFESCAPES® 医療用 B M I

脳血管障害などで比較的軽度な上肢運動麻痺が残存した患者さんに対して使用する訓練用ロボットです。頭皮上から検出できる脳波信号をもとに手指のロボットが反応し手指運動をサポートします。つまり脳から適切な運動の命令を出す訓練を行うためのロボットです。上手く脳波(脳からの運動命令)を出せるようになれば次のステップの訓練に進めます。

